社会連携報告書

2019（令和 元）年度

鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部
COC（地域連携）・国際交流センター

目次

はじめに・・・1

1．高大連携・・・2

1-1　　高大連携

2．学生による地域活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

留学生関連事業

2-1　　グローバルスタディ

2-2　　多文化地域交流フェスタ

2-3　　鈴鹿大学インターナショナルサロン（わいわい春まつり）

クラブ・サークル

2-4　　災害ボランティアサークル「Bell Amigo」

2-5　　こどもボランティア部

2-6　　スポーツ栄養サポート研究会「Grow up」

2-7　　学生広報部 SUZUKA9（スズカナイン）

ボランティア活動

2-8　津市立千里ヶ丘小学校での学習支援ボランティア

3．地域連携・・11

3-1　　公開講座

3-2　　授業公開

3-3　　ＣＯＣ+／高等教育コンソーシアムみえ

3-4　　SUZUKA 産学官交流会

3-5　　鈴鹿市社会福祉協議会との防災関連事業

3-6　　鈴鹿市市民アカデミー「まなベル」

3-7　　みえアカデミックセミナー

3-8　　第３回鈴鹿大学小中学生英語スピーチ発表会

3-9　　TSUNAGU 事例勉強会

3-10　性教育出前授業

3-11　あそび広場「すずちゃん」

4. 国際交流・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
4-1 海外留学支援プログラム（SOP）
4-2 国際交流
4-3 啟英高校訪日修学旅行の受け入れ

資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
学外委員会での活動一覧
2019 年度公開講座一覧
協定先一覧

各事業に記載されている連絡先のメールアドレスにつきましては、2020 年度よりシステムの改正の為、変更となる場合があります。ご連絡を頂く場合には対象事業名、担当者名を明記の上、鈴鹿大学総務課メールアドレス soumu@suzuka.ac.jp へお願い致します。

はじめに

鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部の COC（地域連携）・国際交流センターは、学内組織の見直しにより 2016 年度に開設され、従前組織から引き続いて公開講座の運営や産学連携の推進、海外協定校の拡大、学外団体との調整を行ってきました。2018 年度からは COC（地域連携）・国際交流センターが４部門体制（地域連携、国際交流、COC＋およびコンソーシアムみえ、SUZUKA 産学官交流会）となり、それぞれの部門で組織立てて運営を行っています。センター全体としては、地域や教育、ことばなどに関わる社会的課題を解決するために、大学および学生が他大学や地域社会、行政などさまざまな団体と連携することで、本学が持つ知の成果や人的資源による社会貢献を目指しています。またそれが地域社会の発展、本学の研究、教育の進展につなげられることを願っています。

本学の多くの社会連携活動のなかから象徴的な取り組みとして、今年度一定の成果を出している、あそび広場「すずちゃん」が挙げられます。詳しくは報告書をご覧いただければと思いますが、暮らしのなかの子育てについて、子ども同士、親同士、そしてそこに本学教職員が参加させていただいて、優れた情報交換の場であるとともに、高等教育機関における人材育成の観点から地域に住まう市民と共感し、共に育むというところも見逃してはならないと考えます。これらの活動は学生の視野を広げ成長させるだけでなく、地域の皆さまや高校生にとても魅力を感じていただいています。

また、鈴鹿市との連携活動においても、鈴鹿市災害ボランティアセンターの設置・運営訓練を本学にて実施するための準備を進めてきましたが、あいにく、新型コロナウィルスの感染拡大により中止となりました。今後、鈴鹿市行政に寄与するよう、鈴鹿市の抱える課題に真摯に向き合い、積極的な協力・提案を行っていきたいと考えています。本学の強みである提案力とフットワークの軽さを生かし、意義のある関わり方を戦略的に行っていきたいと考えています。

本冊子は本学の社会連携活動の 2019 年度分をまとめたものです。ご一読いただければ幸いです。また、本学の活動に魅力を感じていただけましたら、共に考え、共に活動し、共に地域課題の解決をする仲間としてご支援、ご助言いただければと存じます。

すでに次年度に向けて活動が始まっている取り組みもあります。新たな事業も多数生まれていますので、実りあるものとなりますようにセンターとしてバックアップしていきます。

鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部の社会連携活動について、今後ともご理解、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

COC（地域連携）・国際交流センター長　郭　育仁

1.高大連携

事業名：1-1　高大連携

■活動の目的と経緯

鈴鹿大学では、大学と高等学校との相互の連携を図るために、久居高等学校、鈴鹿中等教育学校、鈴鹿高等学校、四日市工業高等学校と協定書を締結し、様々な事業で交流を行っています。

■活動内容と実績

★久居高等学校

2019 年度から久居高等学校が新たに開設した授業科目「幼児コミュニケーション」の授業を保育士・幼稚園教諭の養成機関である本学、高田短期大学、ユマニテク短期大学リレー形式で授業を担当し実施しました。

学習目標は、保育につながる基礎的なこと（資質・スキル・知識）とし、以下のような内容の授業を行いました。

＊子どもへの愛情、保育の仕事に関しての情熱、社会人としてのマナー、人間性を育てることを目標とする。

＊保育を好きになってもらい、興味関心を伸ばす。

＊大学生・短大生と交流することで、ロールモデルを見つける。

★鈴鹿高等学校

高大接続の一環として、スポーツの授業や栄養士・保育士体験講習会を計画しました。

①鈴鹿高校で体育スポーツ専攻をしている生徒に本学の体育関係担当教員が交代して「スポーツビジネスの未来について」の講義を３回実施しました。

②高校の文化祭では、国際地域学部・こども教育学部・短期大学部の担当教員と学生たちが協力して展示や健康チェックなどの企画を提供しました。

③バレーボール部においては、全国ヤングクラブ優勝大会のアンダー１９女子の部（U19）に鈴鹿高校女子バレーボール部との合同チームで出場。三重県予選で優勝し、令和元年９月 21 日に大阪で開催された全国大会で見事第３位の成績を収めました。

④鈴鹿高校３年生三者懇談会開催時に入試広報キャリア課の相談ブースを開設し、なんでも相談を受付けました。

★四日市工業高等学校

四日市工業高等学校専攻科生徒の視野を広げ、進路に対する意識や学習意欲を高めるために、本学の授業科目「TOEIC の英語」や「ビジネス英語」などへ特別聴講学生として受け入れ、本学および高等学校専攻科での単位として認定しています。

■今後の計画

今後も高大接続事業を積極的に展開していく予定です。

■担当者

担　当　入試広報キャリア課顧問　米島 久雄

連絡先　メール　yoneshima@m.suzuka-iu.ac.jp

2. 学生による地域活動

留学生関連事業

事業名：2-1　グローバルスタディ

■活動の目的と経緯

地域社会における多文化共生社会実現に向けた取り組みとして、国際経験の豊富な留学生・日本人学生を地域の幼稚園、小・中・高の県内教育機関、行政、国際交流団体等に派遣しています。

本事業は、地域の皆様に外国に対する知識と理解を深めていただくためだけでなく、参加する本学学生の自己啓発を促すための「教育の場」としても位置づけています。学生たちが本学で学ぶ国際学の専門性と国際経験を活かしながら、地域との交流・協働の中で、責任感、自律心、創造力、コミュニケーション能力等を高めることを目的としています。

■活動内容と実績

・通年　国際交流・異文化理解活動の実施

今年度は 10 箇所において、全 14 回行いました。内容としては、フランス人留学生による国際交流協会で自国の文化について話をする会、中国人留学生と韓国人留学生による高校での中国語・韓国語の語学講座、インドネシア人留学生による地域の方へ料理教室や小学校での国際交流授業等を行いました。学生たちは、母国の文化や習慣などを説明するためにパワーポイントなどで視覚資料を作成し、写真を見せながら発表しました。

■今後の計画

引き続き、県内教育機関、行政、国際交流団体等からの学びのニーズに応えつつ、地域社会と本学学生の双方にとってより充実した学びとなることを目指し、事業展開を進めていきます。国際交流協会をはじめ、様々な団体との国際交流を検討しています。

■担当者

担　当　留学生教育支援センター　上田　千華

連絡先　メール　uedach@suzuka-jc.ac.jp

事業名：2-2　多文化地域交流フェスタ 2019

■活動の目的と経緯

鈴鹿大学は開学当初より世界の国々から留学生を受け入れ、外国人学生をはじめとした学生たちと地域住民との交流事業を継続してきましたが、それらをまとめて 2017 年度より（公財）中島記念国際交流財団より助成を受け、日本学生支援機構留学生地域交流事業として、鈴鹿国際交流協会（SIFA）と共に「多文化地域交流フェスタ」を開催しています。

2019 年度は「第 22 回外国人日本語スピーチコンテスト」「第 5 回外国につながる人の母語・継承語スピーチ発表会」に加えて、「コトバ・わたし・未来ワークショップ」を実施しました。

■活動内容と実績

7 月 20 日（土）　第 1 回コトバ・わたし・未来ワークショップ　鈴鹿市男女共同参画センター
参加者：17 名

10 月 17 日（木）第 22 回外国人日本語スピーチコンテスト【学内大会】　B304 教室　121 名

10 月 26 日（土）第 2 回コトバ・わたし・未来ワークショップ　B302 教室　30 名

10 月 27 日（日）第 22 回外国人日本語スピーチコンテスト【本選】　鈴鹿大学国際文化ホール
70 名

11 月　2 日（土）第 5 回外国につながる人の母語・継承語スピーチ発表会
鈴鹿大学国際文化ホール　72 名

12 月 7 日（土）　第 3 回コトバ・わたし・未来ワークショップ　牧田コミュニティーセンター
29 名　　合計　339 名参加

＊詳しくは、『多文化交流フェスタ 2019 報告書』参照

外国人日本語スピーチコンテスト

母語・継承語スピーチ発表会

コトバ・わたし・未来ワークショップ

■今後の計画

今後も外国人学生をはじめとした学生と地域住民が交流を絶やさず、お互いを理解しながら、それぞれが生き生きと暮らす地域にするための取り組みを続けていきます。

■担当者

担　当　国際人間科学部　舟橋宏代・桟敷まゆみ
連絡先　メール　tabunka@suzuka-jc.ac.jp

事業名：2-3　鈴鹿大学インターナショナルサロン（わいわい春まつり）

■活動の目的と経緯

鈴鹿国際交流協会が毎年 4 月に鈴鹿市内のショッピングセンターである鈴鹿ハンターで開催している「わいわい春まつり」に、鈴鹿大学は「鈴鹿大学インターナショナルサロン」を出展しています。外国人学生には、日頃話す機会のない方々と対話し、自国について知ってもらう機会として、地域の方々には、同じ地域で生きる外国人学生の背景やことば、文化にふれることができる機会となります。グローバル人材として外国人学生を育成し、地域の方々と協働することにより、ダイバーシティに富むこの地域の特性を活かす道を探求し、発信していくための基礎を築くことを目的としています。

■活動内容と実績

活動日：2019年４月１４日（日）10：00～15：00　鈴鹿ハンター

留学生をはじめとした外国人学生たちが、自国のことばや文化に関するクイズを、ショッピングセンターを訪れた地域の方に出しました。韓国・中国のクイズに正解された方に大学グッズを受け取ってもらう、というクイズラリー形式で、自国について地域の方々と話し合いました。

外国人学生はクイズを作る過程で、日本人が自国に関して知っていること、興味を持ちそうなことについて考え、説明も準備する中で、自国に関する自分自身の知識や思いを整理することができ、思っていたより多くの方が自国に興味を持ってくれて、多くの話ができたことを喜んでいます。また、地域の方々からは、外国人学生は日本語で話すことが問題ないばかりではなく、未知の世界を描き出し、それを共有できたという声をいただいています。

■今後の計画

引き続き、より多くの方に関心を持ってもらい、気軽に参加していただけるようなあり方をめざします。こうして交流する場でいただいた多くの声を、今後とも大学の国際交流事業に活かしていきたいと考えています。

■担当者

担　当　国際人間科学部 教授　舟橋宏代

連絡先　メール　funahahi@m.suzuka-iu.ac.jp

クラブ・サークル

事業名：2-4　災害ボランティアサークル「Bell Amigo」

■活動の目的と経緯

　災害ボランティアサークル「Bell Amigo」は、災害が発生した時の住民の支援や学生向けの啓発活動等を行うために活動を開始しました。本学は約 10 カ国の留学生が在籍する「多文化共生キャンパス」です。その特徴を生かして、外国籍の住民に対して災害時の通訳や避難誘導ができるように活動ができればと思っています。サークルの名前は「Bell Amigo（ベルアミーゴ：略称ベルアミ）」で、鈴鹿の鈴「Bell」と仲間「Amigo」を組み合わせています。

■活動内容と実績

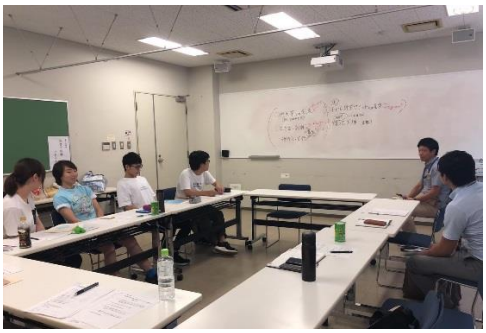
・鈴鹿市災害ボランティアセンター設置・運営訓練・・3/1 に鈴鹿市災害ボランティアセンター設置・運営訓練が本学で行われるため、年度はじめから準備・勉強会を進めてきました。

・鈴鹿市総合防災訓練・・9/29 の鈴鹿市総合防災訓練へ参加し、鈴鹿市災害ボランティアセンター設置・運営の実際を体験しました。

・大学祭模擬店・・10/27 の大学祭で、炊き出し訓練の一環として「心もあたたまる具だくさんみそ汁」を作り、販売しました。調理に不慣れな学生たちが、災害時炊き出しに必要な心構えとノウハウを学びました。

・鈴鹿学・・5/28 の「鈴鹿学」で災害時に行っている活動を PR しました。この日は鈴鹿市社会福祉協議会職員による防災についての講義でした。

・募金活動・・10/19 に令和元年台風 19 号災害義援金街頭募金活動を行いました。



■今後の計画

　研修やボランティア活動経験を生かし、チームとして災害時の訓練を指揮できるようになりたいと思います。災害時には本学に鈴鹿市災害ボランティアセンターが設置されることから、大学の COC センターと協力しながら備えておきたいと考えています。

■担当者

担　当　食物栄養学専攻　乾　陽子（災害ボランティアサークル・ベルアミーゴ顧問）

連絡先　メール　inuiy@suzuka-jc.ac.jp

事業名：2-5　こどもボランティア部

■活動の目的と経緯

こどもボランティア部は、地域の人たちやこどもたちのために役立ちたい、喜んでもらいたいという思いから、ボランティア活動を開始しました。クラブの名前は、部員の多くがこども教育学部に所属していることから、こどもボランティア部という名前に決定しました。

■活動内容と実績

・　いのちの教育人形劇「しあわせの種」上演

８月 31 日に三重県教育文化会館で行われた「三重県犯罪被害者等支援条例制定記念フォーラム」において、いのちの言葉プロジェクトの一環として「しあわせの種」の人形劇を上演しました。これは、16 歳の少年が交通事故に遭い、遺された家族・友人が想い、考えた実話をもとにした人形劇です。実際に交通事故で息子さんを亡くされた方のお話を聞かせてもらい、私たち自身も命の大切さを実感することができ、それと同時に多くの人に伝えたいと思いました。そして、話の内容をもとに人形を手作りし、私たちで劇を演じ、命の大切さを社会に発信しました。何度も練習を重ねて迎えた本番、初めは緊張しましたが、公演後の笑顔はやり切った充実感に輝いていました。人形劇を参観された鈴木英敬三重県知事から、今後の活動へのエールをいただきました。２月 14 日には、津市立千里が丘小学校で６年生対象に上演し、命の大切さをこどもたちに伝えました。

・　郡山こども教室のお手伝い

放課後に公民館などを利用して、こどもの安全・安心な居場所づくりを進める目的で開室され、地域のボランティアの方が運営している郡山こども教室のお手伝いをしました。どんな室内ゲームをするとこどもたちみんなが楽しむことができるか、また安全に活動するためにはどんなことに配慮するとよいのかなど、事前に話し合い準備をしました。10 月２日には、郡山こども教室を訪れ、こどもたちとゲームをしたり、話をしたりして、楽しいひと時を過ごすことができました。

「しあわせの種」上演

■今後の計画

次年度は、引き続き上記の活動に尽力し、大学の近隣の小学校でも人形劇「しあわせの種」を上演する予定です。また、地域のボランティア活動などの新たな活動にも積極的に参加していきたいと考えています。

■担当者

担　当　こども教育学部 講師　森　慶惠（こどもボランティア部顧問）
連絡先　鈴鹿大学　（059）372-2121

事業名：2-6　スポーツ栄養サポート研究会「Grow up」

■活動の目的と経緯

スポーツ栄養サポート研究会　Grow up は、社会人サッカーリーグの「FC 鈴鹿ランポーレ」から食事指導の依頼を受けたのを機に、平成 24 年から食物栄養学専攻の学生を中心に活動を始めました。これまで、FC 鈴鹿ランポーレや日本ハンドボールリーグの「三重バイオレットアイリス」へのサポートや、本学の野球部へのサポートなどを行ってきました。また、三重県教育委員会が年度初めに募集する高等教育機関の専門的な知識や技能を活かす教育プログラム「まな便」に登録しており、依頼があれば可能な限りお受けし、活動を行います。活動の目的は、選手自身がよいコンディションを保ち、競技技術向上を目指すために、食事の大切さを伝え、食生活がより良くなるようサポートすることです。

■活動内容と実績

今年度は、４月に本学女子バレーボール部のエキシビションマッチにて、観客の皆様に軽食（パン）の提供を行い、７月には同じく本学女子バレーボール部員への栄養教育を実施しました。

令和２年２月８日には、地域の小学生バレーボールチームを対象にスポーツ栄養教室を行い、総勢５０名の参加をいただきました。

午前中の調理では「おにぎらず・豆乳スープ・フルーツポンチ」を小学生、保護者の方、サークル部員と会話を交えながら楽しく調理を行いました。また、午後からはスポーツ栄養に関するクイズを行いました。各テーブル、みんなでどれが正解か話し合ってもらったり、発表してもらう場面もありました。この教室での内容を、これからの生活に活かしていただけると幸いです。

今回の Grow up スポーツ栄養教室に大勢の方が参加していただき、また、たくさんのご協力をいただき、感謝いたします。

■今後の計画

引き続き「まな便」に登録します。すでに依頼をいただいており、来年度スポーツ栄養教室を実施予定です。そして、その他、依頼があった場合は可能な限り引き受け、活動を行っていきたいと考えています。

■担当者

担　当　スポーツ栄養サポート研究会　Grow up 顧問　木下　麻衣
連絡先　メール　kinoshitam@suzuka-jc.ac.jp

事業名：2-7　学生広報部 SUZUKA9（スズカナイン）

■活動の目的と経緯

学生広報部 SUZUKA9 は、学生がアイデアを出し合ってイベントを企画し、学生が学生に呼びかけることで、大学を活性化させることを目的として 2017 年度から立ち上げました。

SUZUKA9 が企画したイベントを実施していく中で、さまざまな経験から知識を得て、コミュニケーション力、企画力、制作力、実行力などの社会人として必要な実践的な能力を養うためのキャリア支援を行う目的もあります。

また、学生が大学に関わり活動することで、より大学を身近に感じ、大学側も学生がどのように考えているかを理解することができるという、本学と学生との相互理解を深めるパイプ役として、SUZUKA9 が役割を果たしています。

メンバーは、各学部から推薦された 2～3 名の学生が SUZUKA9 となり、活動します。1 年ごとにメンバーが入れ替わりますので、毎年違った SUZUKA9 が、学部を超えて協力しながら、大学・短期大学部の広報に携わっています。

■活動内容と実績

・オープンキャンパスなどの企画・運営・・年に６回開催される全学を挙げて実施するオープンキャンパスの企画・運営を行っています。「チーズハットグ風を作ろう！」「韓国講座」「クラシックコンサート」など、来場者に喜んでもらえるように工夫をしながら実施しました。

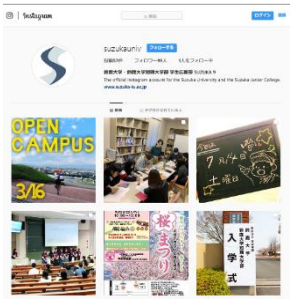
・学生広報誌「ComCam」の編集・発行・・学生が編集長となり、年に１回、学生広報誌を発行しています。オープンキャンパスや大学祭の報告、サークルの紹介などが掲載されています。

・SNS での情報発信・・　学生目線で、リクルートの OC ストーリーズや Instagram での情報発信を行っています。

６月 OC「韓国講座」

SUZUKA9

ComCam



Instagram

■今後の計画

次年度よりオープンキャンパス実行委員会を立ち上げ、活動を始めています。来年度のオープンキャンパスの企画を話し合ったり、リーダーを決めて担当を決めたりと。それぞれの学部専攻から総勢 40 人余り実行委員を選出して取組み始めました。新しい学生広報部をよろしくお願いいたします。

■担当者

担　当　入試広報キャリア課　吉田　翔平

連絡先　メール　yoshidas@suzuka-ic.ac.jp

ボランティア活動

事業名：2-8　津市立千里ヶ丘小学校での学習支援ボランティア

■活動の目的と経緯

2003 年度後期から本学学生による「津市立千里ヶ丘小学校での学習支援ボランティア」を開始しました。当時の校長の「気軽に小学校に手伝いに来てくれる大学生がいたら助かるんやけどな～」という一言から始まり、16 年間続いています。活動内容は、こどもたちの学習を支援することが中心で、大学の授業の空き時間を利用して参加できるボランティアです。これまで延べ 300 名以上の学生が参加しました。

■活動内容と実績

学期の始めに鈴鹿大学でボランティア説明会を開き、千里ヶ丘小学校の教務主任の先生から、学校の概要・特徴、こどもたちの様子、ボランティア活動の内容、注意事項などの説明があります。その後、学生は初回時にスーツを着て小学校に出向き、教務主任の先生から学校に着いてから帰るまでの流れや施設の説明、担当する学年・クラスの様子、実施報告書等の記入方法などを教えてもらい、2回目からは普段着でボランティアに参加します。

2019 年度は、短期大学部およびこども教育学部の学生 21 名が参加しました。

学生は、こどもたちから「先生」と呼ばれ、授業の補助をすることはもちろんですが、休み時間に一緒に遊んだり、運動会などの行事を手伝ったりと、様々な場面で活躍しています。中には、時間さえあれば小学校に出向き、まるで講師のように職員室に出入りする学生もいます。

千里ヶ丘小学校の山川校長からは、「こどもたちが安心安全な学校生活を送るためには、多くの大人たちが目配りをする必要があり、学生たちにボランティアに来て頂けることは、大変助かっています。鈴鹿大学の学生は、礼儀正しく、こどもたちに寄り添って面倒をみてくれるため、全体的に意識の高い方が多い印象です。今は、地域のさまざまな機関が連携し、互いに助け合っていくことが求められる時代。学生のみなさんには、本校で過ごす時間を、多くの学びを得る機会の場としてほしいです」という感想を頂いており、小学校と大学双方にとって有意義な取り組みであると考えています。

■今後の計画

次年度も継続して実施し、前期、後期の始めには、千里ヶ丘小学校の教務主任の先生によるボランティア説明会を開き、新規の募集を行う予定です。

■担当者

担　当　こども教育学部　齋藤　信（授業科目「ボランティア活動」担当）

連絡先　メール　saitom@m.suzuka-iu.ac.jp

3. 地域連携

事業名：3-1　公開講座

■活動の目的と経緯

公開講座は、大学のもっている専門知識を広く地域・社会に発信し、大学の知の開放、社会貢献を目的として実施しております。2019 年度は 29 講座を開講しました。受講者に分かりやすいよう「スポーツ・健康講座」「英語講座」「管理栄養士国家試験準備講座」「クッキング講座」「音楽療法」「高校生向け講座」のカテゴリーに分けて企画を行いました。

■活動内容と実績

・通年　広報活動の実施（鈴鹿市報・学校向けチラシ・公民館等へのチラシ配置・HP 掲載　など）

・5～2 月　2019 年度公開講座の実施

★講座実績は別に添付した資料（2019 年度　公開講座　実績）参照

・10～2 月　2020 年度公開講座の企画

のべ 858 名の受講者の方々に学びの機会を提供させていただきました。特に人気があったのは、親子でイングリッシュ・英会話といった英語講座、パン教室・おとこの料理教室といったクッキング講座、シニアのための音楽療法講座でした。また、スポーツトレーニング学、スポーツ看護学、スポーツ栄養学、生涯スポーツからスポーツ・健康を考える一連の講座にも健康意識の高い方々が多数学ばれました。

年度はじめから鈴鹿市報での情報発信をこまめに行ったことなどから、一定の集客を得ることができました。

■今後の計画

引き続き、地域住民の学びのニーズに応えつつ、本学の特長を出せる事業展開を進めていきます。また広報活動を見直し積極的な集客を図るとともに、適切な講座の進行・運営を目指していきます。

■担当者

担　当　総務課　および　COC（地域連携）・国際交流センター長　乾　陽子

連絡先　メール　inuiy@suzuka-jc.ac.jp

事業名：3-2　授業公開

■活動の目的と経緯

開かれた大学、地域に貢献できる大学を目指し、鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部では、正規授業を地域の皆様に公開しています。聴講生として受講をしていただき、後に本学に入学された場合は、受講された科目の単位を認定するものです。また、年度末に修了式を開催し、授業 15 回のうち 10 回以上出席された方に修了書を授与いたします。毎年多くの地域住民の皆様が生涯学習の場としてご利用してくださっています。

■活動内容と実績

前期　18 科目 40 名　後期　18 科目 37 名

教養科目、情報処理科目、各学部の専門科目と幅広い分野の科目を受講されました。

2019年度のまとめとして、2020 年 1 月 21 日に、前期・後期　授業公開修了式及び交流会を実施しました。

修了式　学長式辞

代表者への修了書授与

■今後の計画

引き続き、地域住民の学びの場として、正規授業を公開していきます。2020 年度は前期 65 科目、後期 64 科目授業公開する予定です。

■担当者

担　当　総務課　および　教務・学生支援課長　中村　章二

連絡先　メール　kyomu@m.suzuka-iu.ac.jp

事業名：3-3　ＣＯＣ＋／高等教育コンソーシアムみえ

■活動の目的と経緯

☆ＣＯＣ＋：三重県内すべての高等教育機関が一丸となって、若年層の県内定着率の向上や新規雇用の創出を目的としています。その中で、地域のイノベーションを推進できる三重創生ファンタジスタの育成に取り組んでいます。

☆高等教育コンソーシアムみえ：三重県内高等教育機関相互並びに県内高等教育機関と地域との連携を促進することにより、県内高等教育機関の教育、研究、地域貢献の各機能の向上を図り、人口減少の抑制及び地域の活性化を実現することを目的として発足しました。

※2020 年度、ＣＯＣ＋は、高等教育コンソーシアムみえへ機能が移転します。

■活動内容と実績

☆三重創生ファンタジスタの育成（ＣＯＣ＋）

　学生たちに三重県のことをよく知ってもらおうと、県内の学生であれば誰でも受講できる三重創生ファンタジスタオリジナル科目を開講し、本学からも、2017 年度から学生が参加しています。三重県総合博物館などで、三重を知る座学と、フィールドワーク（熊野市周辺）で地域の方々を取材、その成果を事後発表会へとつなげるという３ステップは、ハードルは高いですが、学生たちは、他大学の学生との学びで、大きく成長することができました。この体験が、のちのキャリア形成につながれば幸いです。

熊野市でのフィールドワーク　　左：定置網体験　右：他大学生とのグループワーク

☆単位互換制度（高等教育コンソーシアムみえ）

2019 年度から、鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部の学生が、県内の高等教育機関（大学・短大・高専）で、指定された科目について履修ができるようになります。

■今後の計画

　今後も県内の高等教育機関と連携を深め、協力しながら、本学の学生にとっても、メリットのある取組をいたします。県内への就職に有利な三重創生ファンタジスタの資格取得者が増えて、地域人材育成・地域貢献できる大学を目指していきたいです。

■担当者

担　当　国際地域学部　国際地域学科　地域コース（観光）教授　冨本真理子

連絡先　メール　tomimotom@m.suzuka-iu.ac.jp

事業名：3-4　SUZUKA 産学官交流会

■活動の目的と経緯

鈴鹿大学は SUZUKA 産学官交流会（事務局：鈴鹿商工会議所）のプロジェクトへの協力を行っています。2019 年度は以下の事業を主体に展開されました。

①鈴鹿芍薬プロジェクト：「芍薬を活用した鈴鹿西部地域の活性化」

②鈴鹿ランニングバイクプロジェクト「ランニングバイクを活用した幼児の心と体力づくり」

③F バーガープロジェクト「学生による SNS プロモーション活動」

■活動内容と実績

・通年　役員会出席

・５月　第 21 回通常総会出席

　　鈴鹿シャクヤクまつりへの協賛

・２月　ランニングバイク贈呈式@SUZUKA 産学官交流会設立 20 周年記念式典

・随時　F バーガーの SNS 情報発信

平成 13 年に発足した環境植物研究会が事業の拡充を図るべく平成 27 年度から再構築された「鈴鹿芍薬プロジェクト」が誕生して今日に至っています。本学は同プロジェクトの鈴鹿市西部地域における大規模栽培や薬効成分を活かした生薬製造等の目的の達成に関して、鈴鹿市および県下の関係機関と連携して同プロジェクトを支援しています。毎年 5 月に開催される「鈴鹿シャクヤクまつり」は、学生の学びを実践に還元する貴重な場となっています。

幼児の体幹教育を中心としたランニングバイクの研究実績は、SUZUKA 産学官交流会設立 20 周年記念式典でも高く評価されました。

■今後の計画

引き続き産学官の各組織と、地域の課題解決にまつわる連携を構築します。

■担当者

担　当　国際地域学部　今光俊介

連絡先　メール　imamitsu@m.suzuka-iu.ac.jp

事業名：3-5　鈴鹿市社会福祉協議会との防災関連事業

■活動の目的と経緯

鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部は鈴鹿市社会福祉協議会と災害発生時における相互協力に関する協定書を締結しています。鈴鹿市内において災害発生時に、迅速かつ効率的に被災者に対する支援活動を行うことができるように相互に連携協力することで、被災者等の生活安定に寄与することが目的です。そのため、平時から訓練を行うことは意義があります。また学生ボランティアを参加させることで、学生自らの課題発見と社会貢献意識の醸成を図れると考えています。

■活動内容と実績

・５月 28 日　鈴鹿市社協職員による本学「鈴鹿学」での講義　実施
・６月 21 日　鈴鹿市社協職員とベルアミーゴによる勉強会　開催
・６月 27 日　第１回鈴鹿市災害ボランティアセンター連絡会　出席
・７月 29 日　鈴鹿市社協職員とベルアミーゴによる勉強会　開催
・９月 29 日　鈴鹿市総合防災訓練　災害ボランティアセンター運営訓練　参加
・10 月 19 日　令和元年台風 19 号災害義援金街頭募金活動　参加　白子サンズにて
・１月８日　第２回鈴鹿市災害ボランティアセンター連絡会　出席
・２月 19 日　鈴鹿市災害ボランティアセンター設置・運営訓練　学内説明会　開催
・３月１日　鈴鹿市災害ボランティアセンター設置・運営訓練　新型コロナウィルス対策により中止

３月１日の鈴鹿市災害ボランティアセンター設置・運営訓練は本学を会場として行うこととなっていました。そのため年度はじめから訓練に向けての準備を進めてきました（訓練直前で新型コロナウィルス対策として中止となりましたが）。鈴鹿市社会福祉協議会との防災関連事業として中心となる学生組織としてベルアミーゴがあります。ベルアミーゴの学生は災害時に活躍が期待されることから、災害ボランティアセンターの仕組みや活動内容など勉強会を重ねてきました。結果的に訓練は中止となってしまいましたが、今年度の活動は来年度からの活動に活かせると感じています。

■今後の計画

鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部は積極的に防災への取り組みを行っていることを PR しつつ、今後何ができるのか、鈴鹿市社協や関連団体と協力して取り組んでいきたいと思います。

■担当者

担　当　総務課　および　COC（地域連携）・国際交流センター長　乾　陽子
連絡先　メール　inuiy@suzuka-jc.ac.jp

事業名：3-6　鈴鹿市市民アカデミー「まなベル」

■活動の目的と経緯

「すずか市民アカデミー『まなベル』」は、鈴鹿市と連携し、鈴鹿市民の「さらに詳しく知りたい」という専門的分野への学習ニーズに応えるとともに、学びの楽しさを実感し、生涯学習をさらに深めていくことを目的としています。

「まなベル」は、鈴鹿市から業務委託という形式で鈴鹿市内の４高等教育機関が行っている事業です。各教育機関を開錠として、それぞれの特徴を生かした専門性のある教育内容を分かりやすく楽しい講座として提供しています。

■活動内容と実績

今年度テーマ「未知との遭遇～学びの楽しさ再発見～」

・2019年10月19日（土）　10：00～11：30　（会場：本学B101）

講　　座：台湾今昔物語～鈴鹿から台湾へのいざない～

（ねらい：暮らしのなかで紡ぐ観光文化について学ぶ）

講　　師：国際教育学部　准教授　郭　育仁

参加人数：30名

・2019年10月22日（火）10：00～12：00　（会場：本学ランチルーム）

講　　座：血圧を上げないための減塩のヒント

（ねらい：食塩と高血圧の関係を知り減塩の必要性を理解する減塩の方法を知り、食生活に反映させる）

講　　師：短期大学部　教授　梅原　頼子

参加人数：36名

■今後の計画

引続き鈴鹿市の要望（テーマ）及び鈴鹿市民の学びのニーズを応えた講座を提供していきます。また、本学の特徴を生かした専門的でありながら、それでいてわかりやすい生涯学習講座を目指していきます。

■担当者

担　当　総務課　柳田　佳奈江

連絡先　メール　hojin@kyoeigakuen.net

事業名：3-7　みえアカデミックセミナー

■活動の目的と経緯

三重県内にある全ての高等教育機関が有する高度な学びと県民の方々とをつなぐことを目的とした公開講座セミナーです。各高等教育機関の特色を生かしたバラエティ豊かなセミナーであり、新しい学びの発見につながるとともに、地元の各高等教育機関の特色や地域への取り組みなどを知ってもらうことができるよい機会となっています。

■活動内容と実績

- 2019 年7月 21 日（日）13：30～15：15　（会場：三重県文化会館レセプションルーム）
  講　　座：音楽と人間ー音楽療法の現場を通して考えるー
  講　　師：短期大学部　教授　鵜飼　久美子
  参加人数：124 名
- 2019 年８月２日（金）13：30～15：00　（会場：三重県文化会館レセプションルーム）
  講　　座：孫育てのすすめー最新の保育事情と祖父母の活躍の場ー
  講　　師：こども教育学部　准教授　杉山　佳菜子
  参加人数：81 名
- 2020 年１月 28 日（火）13：30～15：10　（会場：ハイトピア伊賀５階大研修室）
  講　　座：伊賀市の外国人事情と外国人との共生社会
  講　　師：国際地域学部　教授　細井　和彦
  参加人数：69 名

■今後の計画

引き続き、県民の学びのニーズに応えた講座を提供していきます。また、本学の特徴を生かした専門的でありながら、それでいてわかりやすい講座を目指していきます。

■担当者

担　当　総務課　柳田　佳奈江

連絡先　メール　hojin@kyoeigakuen.net

事業名：3-8　第３回鈴鹿大学小中学生英語スピーチ発表会

■活動の目的と経緯

１．開催の趣旨（目的）：鈴鹿大学は「地域に立脚した国際人の養成」を教育目標としています。そのため、語学(英語) 教育に力点を置いてカリキュラムを編成しています。国際化社会における英語教育の重要性に鑑み、少しでも近隣の小・中学校の英語能力向上のお役に立てればと考えています。

２．経緯：鈴鹿市の天栄中学校区および鈴峰中学校区内の小・中学生にご応募を頂いています。

■活動内容と実績

日時：令和１年 10 月 26 日（土）９：30～12：00　（大学祭第１日目）場所：国際文化ホール

参加者：教職員４名, 小学生７名、中学生２名、鈴鹿大学生 25 名、一般 25 名　合計 63 名

英語スピーチ発表会出場者：

1. Shu MATSUMOTO (Tenei Junior High School): My Favorite Things
2. Fuga MIYAZAKI (Tenei Junior High School): Textbooks and Tax
3. Nanami SUGINO (Sakae Elementary School): The Things which I’m Hooked On
4. Issa YOSHIKAWA (Sakae Elementary School): What I’m Crazy About
5. Mika TSUJI (Aikawa Elementary School): My Dream
6. Rikuto OTA (Amana Elementary School): The 2nd Sakana-Kun
7. Shopan KATAYAMA (Amana Elementary School): My Family “Bianco”
8. Naruki MATSUMOTO (Amana Elementary School): My Lessons
9. Neal MAHONEY (Special Speaker, Seki-Juku resident): A View on a Future Town Plan

■今後の計画

引き続き、英米語コースもしくは国際コースの学生参加とともに、大学祭第１日目開催を予定し、小中学生約 12 名の参加募集に努めていきます。

■担当者

担当者　国際人間科学部　ブライアン・マホニー（令和１年度英語スピーチ発表会責任者）
連絡先 メール　bjmahoney@m.suzuka-iu.ac.jp

事業名：3-9　ＴＳＵＮＡＧＵ事例勉強会

■活動の目的と経緯

つなぐ育ち事例勉強会では、0～22 才の子どもの育ちを支援するための事例勉強会を行います。子どもと家族をつなぐ、家族と学校や社会をつなぐ、途切れない支援をつなぐ、関係機関をつなぐために「発達」と「学校保健」をテーマに、事例を通して勉強をしていきます。 わからないことに答えを出す勉強会ではなく、課題を共有し、参加者で課題解決ができるような糸口を見つけていけるような勉強会を目指します。

■活動内容と実績

日時：【発達編】①5 月 18 日（土）10：00～11：30

講師：岡村広志氏（三重県児童相談センター中勢児童相談所児童心理司）

テーマ：「知能検査と発達支援～WAIS-Ⅲの結果の読み取りを中心に」

【保健編】②6 月 14 日（金）18：00～19：30

講師：森慶恵先生（鈴鹿大学講師）

テーマ：「つなぐ連携の視点からみた養護教諭の職務」

【発達編】③7 月 23 日（火）18：00～19：30

講師：西田寿美先生（NPO ライフ・ステージ・サポートみえ）

テーマ：「青年期の発達障害とライフステージを通した多職種連携」

【保健編】④8 月　5 日（月）14：00～15：30

講師：川村真奈美先生（いなべ総合病院産婦人科医）

テーマ：「学校の性教育に外部講師として伝えたいこと」

【発達編】⑤9 月 17 日（火）13：30～16：00

《第 1 部》講師：松林育也氏（株式会社トモ　総務部部長）

山路千代子氏（障がい者職業生活相談員）

地主久美子氏（津公共職業安定所就労支援ナビゲーター）

テーマ：「発達障害者の就労を考えるセミナー」

場所：鈴鹿大学講義室

対象：教育・医療・保健・福祉関係者

参加者：①41 名、②14 名、③43 名、④42 名、⑤103 名

■今後の計画

今後も、子どもたちを取り巻く背景のニーズに携わる問題に焦点を当て、現場の困りごとや知りたい情報を提供していきたいと考えています。

■担当者

担　当　こども教育学部　小川　真由子

連絡先　メール　ogawam@suzuka-jc.ac.jp

事業名：3-10　性教育出前授業

■活動の目的と経緯

このプロジェクトは出前授業を通して、養護教諭を目指す学生と児童生徒のそれぞれの育ちをつなげていくことを活動の目的としています。学生の育ちとして、 養護教諭を目指す学生が学校現場に出向き、授業計画から準備、実践、振り返りまでを体験し、実践力を身につけることを目指しています。こどもの育ちとして、性に関する授業を通して、自分が生まれてきたことの奇跡、命の大切さを学ぶ生の授業として、自分を大切にする心を育てること、またそこから家族に対する感謝の気持ちや、友達を含めた他者も大切にする心につなげていくことを目指しています。

■活動内容と実績

日　時：2019 年 7 月 8（木）9：30～10：15、10：35～11：20

場　所：三重県玉城町立有田小学校

対　象：1 年生児童 25 名、3 年生児童 25 名

実施者：鈴鹿大学こども教育学部養護教育学専攻 2 年生 11 名、編入生 1 名

引率教員：鈴鹿大学こども教育学部　仲　律子、森　慶恵、小川　真由子

「命の大切さを知ろう」というテーマで、1 年生と 3 年生の児童を対象に 45 分ずつの授業を実施しました。学生は 2 グループに分かれて 1 年生と 3 年生の授業を担当し、授業案作成から教材作り、授業計画を準備して実践に臨みました。

学生からは「授業を実施することの難しさを学びました」、「子どもたちの反応がかわいくてやりがいを覚えました」などの感想がありました。また児童からは、「あかちゃんはおもいことがわかった」、「またきてほしいです」「赤ちゃん人形をだっこしてうれしかった」などの感想を頂きました。学生は授業を実施する大変さを実感するとともに、児童との交流を通じてその手ごたえを感じることができ、教諭を目指すための今後の課題を持つことができた貴重な経験でした。

■今後の計画

来年度も、県内の小学校への出前性教育を計画しています。テーマについては要望に応じて授業計画を相談して決めていきたいと考えています。ご希望があれば回数も増やしていく予定です。

■担当者

担　当　こども教育学部　小川　真由子

連絡先　メール　ogawam@suzuka-jc.ac.jp

事業名：3-11　あそび広場「すずちゃん」

■活動の目的

あそび広場「すずちゃん」では、地域の親子が集い、子どもが楽しく遊んだり、親と子が交流したりする機会を提供しています。また、子ども同士、親同士が自然に交流できる環境を作り、子どもの健やかな育ちを支えています。親のニーズに応じ、子育て等に関する情報の提供や相談を通して、親が安心して子育てができる環境を整えることで学生の実践活動を展開する経験を通して保育の実践力を高める場としています。

■活動内容と実績　(2019年度)

開催期間：毎週月曜日 10 時～12 時（鈴鹿大学 I 棟プレイルーム）
リトミック　５月１３日、６月１０日、７月８日、１０月７日、11 月１１日に開催
音楽療法　月１回木曜日　16 時 45 分～45 分　（C 棟 205）

開催回数：通常の広場３１回　コンサート１回　休日特別回１回　リトミック５回　音楽療法８回

参加人数：来場乳幼児　延べ 275 名。

参 加 費：通常の広場　無料　リトミック　親子１組１回 500 円　音楽療法１回 500 円

対　　象：広場・リトミック　未就園児親子
音楽療法　小学生低学年（特別なニーズをもつ児童）

担 当 者：田中裕子　辻有里（音楽療法）　杉山佳菜子　リトミック：勝井由紀（外部講師）

■今後の計画

今年度より、参加料を無料とし、自由に地域の親子が集い、子どもが楽しく遊んだり、親と子が交流したりする機会を提供すると同時に、学生の学びの場とすることができました。音楽療法でも一定の成果を出すことができました。あそびの広場では後期は参加者が減ってしまい、学生に十分な学びの場を提供できなかった日もありました。広場の自由度を高くした分、学生の学びを考える上では参加者の予測がつかないところが課題だと考えます。

今年度は授業期間のみの予定でしたが、休み期間も開いたところ一定数の参加がありました。次年度は年間を通じて広場を開催するなど、広場の存在をより多くの人に利用してもらえるように広報し、多くの参加者を学生の学びの成果も高めていきたいと思います。

■担当者

担当者代表　こども教育学部 杉山佳菜子
連絡先　　sugiyamak@suzuka-jc.ac.jp（杉山）

4. 国際交流

事業名：4-1　海外留学支援プログラム（SOP）

■活動の目的と経緯

本学の目標のひとつに「国際社会で活躍できる人材の育成」が掲げられ、実績を出しています。2019 年度より全学部・学科の学生および優秀な留学生の参加を視野に入れて対応するため、中身を大幅に見直すとともに「海外留学支援プログラム Study Overseas Program」へ名称変更を行いました。

学生自らが海外生活を送り、異文化を体験できるよう、協定校への留学を支援します。国際社会へのアプローチを通して、幅広い知識と教養を身につけ、諸国語の習得や対象国・地域の課題を実践的に学ぶことが期待されます。

■活動内容と実績（2019 年）

（1）交換留学の派遣：4 名（内訳：韓国・仁川大学 1 名、台湾長栄大学 1 名、カナダ・シェリダン・カレッジ 2 名）

（2）支援金総額：600,000 円

派遣実績のある対象校へ学生を送り出していることで、学生自身の成長が本事業として主な目標を達成したとともに、海外大学との国際交流が継続性を見せています。

一方、国内社会の変動に伴う大学経営の深刻化が本事業実施の可能性を制限してしまうほか、派遣対象協定校の増加による多様化、といった課題が残っています。

■今後の計画

SOP 事業改善プロジェクト会議を通して、事業の継続性と健全化を図っています。

■担当者

担　当　教務・学生支援課　および　COC（地域連携）・国際交流センター長　郭 育仁

連絡先　メール　icpkaku@m.suzuka-iu.ac.jp

事業名：4-2　国際交流

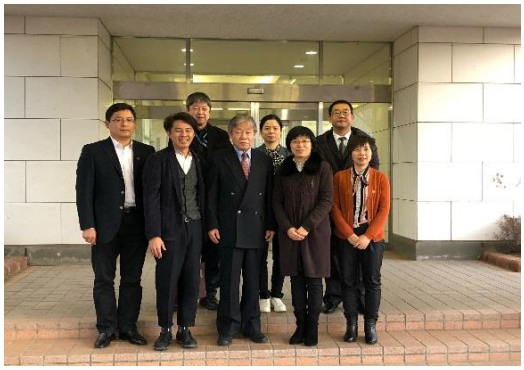
■活動の目的と経緯

本学の海外における情報発信を図ることにより、入試広報の効果が得られるほか、それに伴う事業の実施も大学総合改革の審査対象となっています。

■活動内容と実績

- 2019 年 10 月　台湾長栄大学との学生交流に関する協議書
- 2019 年 12 月　中国・義烏工商技術学院の表敬訪問

既存の大学間協定に基づく学生交流事業を継続するほか、長栄大学との学生交流協定の締結をきっかけに学生派遣を予定しています。また、本学の教学内容に沿って、中国・義烏工商技術学院との学術交流を検討しています。



■今後の計画

中国文化大学・政治学部、長栄大学と基本協定を踏まえて、実質な交流事業を推進します。一方、中国からも新規協定の要請を受けており、国際交流協定による海外発信を着実に進めていきます。

■担当者

担　当　総務課　および　COC（地域連携）・国際交流センター長　郭 育仁

連絡先　メール　icpkaku@m.suzuka-iu.ac.jp

事業名：4-3　啟英高校訪日修学旅行の受け入れ

■活動の目的と経緯

今日の日本以上に、厳しい少子化問題に悩まされる台湾で優秀な留学生・入学者を確保するため、2015 年より現地での入試広報活動を重ねてきました。

啟英高校は、学生数にして台湾国内２番目を誇る 7000 名余りとあるとともに、各地の高校・大学機関の日本語学科が閉鎖されていく大きな流れのなかで、当該高校だけが日本語学習者のクラスを３クラスまで（通常１クラスあたり 40 名ぐらい）増設するというところです。

■活動内容と実績

- 2019 年５月　台湾・啟英高校にて現地説明会を開催
- 2019 年９月　本学に秋季入学２名
- 2019 年 12 月　先輩在学者と親睦交流のため、本学来訪

2018 年５月から数えて４回ほど現地訪問を重ね、本学と同グループ法人・鈴鹿享栄学園（鈴鹿高校・中等教育学校）はそれぞれ、「高大接続協定」と「高校間姉妹校協定」を交わしました。台湾啟英高校側も誠意を示すものとして、恒例の日本修学旅行を２年連続して本学に足を運んでくれることになりました。

また、秋季入学としてこども教育学部に２名の留学生が入学され、４年ぶりに台湾人留学生の在籍となりました。

■今後の計画

現地で入試説明会を開催し、優秀な留学生を確保します。また、市内の各セクターと連携し、訪日修学旅行の定着化を図ります。

■担当者

担　当　総務課　および　COC（地域連携）・国際交流センター長　郭 育仁
連絡先　メール　icpkaku@m.suzuka-iu.ac.jp

資料

学外委員会での活動一覧

　この資料は鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部に委嘱届の提出されたもののみを示します。この他に教員が個人的に学外組織の委員を務めている場合もあります。

教員

名前	派遣先	内容
田中　利佳	鈴鹿市	三重とこわか国体・三重とこわか大会鈴鹿市実行委員会　総務企画専門委員会／委員
	鈴鹿市	鈴鹿市公の指定管理者選定委員会／委員
木之内　秀彦	鈴鹿市	人権擁護に関する審議会／委員
	鈴鹿市	個人情報保護審査会／委員
富田　寿代	三重県	三重県環境影響評価委員会／委員
	愛知県	愛知県環境影響評価委員会／委員
	鈴鹿市	鈴鹿市廃棄物減量等推進審議会／委員
	名古屋市	名古屋市大規模小売店舗立地審議会／委員
冨本　真理子	三重県	みえ地域創生多文化産学官連携推進協議会／委員
	鈴鹿市	鈴鹿市観光まちづくり委員会／委員長
	鈴鹿市政策経営部	鈴鹿市総合計画審議会／委員
	伊勢市	都市計画審議会／委員
	斎宮歴史博物館	運営専門委員
桟敷　まゆみ	鈴鹿国際交流協会	評議員
崔　載弦	三重県	三重地域留学生交流推進会議運営委員会／委員
舟橋　宏代	ダイシン物流株式会社	日本語教室アドバイザー
竹田　昌平	三重県生涯スポーツ協会	理事長
	日本ティーボール協会	評議員
	日本ティーボール協会三重県連盟	理事長
	日本プロット株式会社	取締役
	株式会社タケダ	代表取締役
川又　俊則	桑名市	桑名市男女共同参画審議会／委員
	三重県	三重県男女共同参画センター運営協議会／委員
大野　泰子	鈴鹿市子ども政策部	特定教育・保育施設等重大事故検証委員会／委員長
久保　さつき	鈴鹿市	鈴鹿市農業委員会／委員

小川　真由子	鈴鹿市	鈴鹿市防災会議／委員
	鈴鹿市	鈴鹿市国民保護協議会／委員
田口　鉄久	津市	子ども・子育て会議／委員
	鈴鹿市	子ども・子育て会議／委員
山路　克文	松阪市	松阪市安全・安心施策推進協議会オブザーバー
	私立大学情報教育協会	委員
	明和町	明和町教育委員会／教育委員
	三重県	三重県社会福祉審議会／臨時委員（高齢者福祉専門分科会）
	三重県	三重県医療福祉部地域ケア会議／活動支援アドバイザー（広域支援員・専門職）
梅原　頼子	三重県栄養士会	理事・副会長
	日本栄養士会	評議員
	日本栄養士連盟	評議員
	三重県公衆衛生審議会	歯科保健推進部会／委員
乾　陽子	家庭料理技能検定	検定委員
	鈴鹿市社会福祉協議会	鈴鹿市災害ボランティアセンター連絡会委員

事務職員

名前	派遣先	内容
米島　久雄	鈴鹿市	鈴鹿市雇用促進連携協議会構成員
小椋　恵子	三重県	三重県医療安全推進協議会／委員

2019 年度公開講座一覧

	開催日	タイトル	受講者数
クッキング講座	7月6日（土）	手ごねで作る楽しい手づくりパン教室① おかずパン	13人
	8月3日（土）	手ごねで作る楽しい手づくりパン教室② スコーン	14人
	9月14日（土）	手ごねで作る楽しい手づくりパン教室③ バナナポートパン	11人
	6月8日（土）	簡単！おとこの料理教室① イタリアン	9人
	7月20日（土）	簡単！おとこの料理教室② 和食	13人
	10月12日（土	簡単！おとこの料理教室③ 中国料理	中止
	11月30日（土	簡単！おとこの料理教室④ 韓国料理	14人
スポーツ・健康講座	6月9日（日）	スポーツ看護学～スポーツに関連する健康障害～	12人
	7月13日（土）	生涯スポーツとしてのジョギング	8人
	8月4日（日）	スポーツトレーニング学～運動器疾患への対応とスポーツで起こる諸問題～	10人
	9月21日（土）	スポーツ栄養学～朝食の重要性と食事のタイミング～	13人
	6月15日（土）	減塩ワークショップ①	中止
	8月24日（土）	減塩ワークショップ②	中止
	11月16日（土	減塩ワークショップ③	中止
	1月11日（土）	減塩ワークショップ④	中止
英語講座	10月19日(土)	Haiku in internment Camps,Canada	7人
	全10回	親子でイングリッシュ 前期 0~3歳クラス	8組
	全10回	親子でイングリッシュ 前期 3~5歳クラス	6組
	全10回	親子でイングリッシュ 後期 0~3歳クラス	15組
	全10回	親子でイングリッシュ 後期 3~5歳クラス	14組
	全10回	英会話講座 前期 初級クラス	5人
	全10回	英会話講座 前期 中級クラス	7人
	全10回	英会話講座 後期 初級クラス	9人
	全10回	英会話講座 後期 中級クラス	3人
シニアのための音楽療法	5月18日(土)	「音楽で健康づくり」 脳の活性化で認知症予防に取り組みましょう！	28人
	7月6日(土)	「音楽で健康づくり」 脳の活性化で認知症予防に取り組みましょう！	23人
	10月5日（土）	「音楽で健康づくり」 脳の活性化で認知症予防に取り組みましょう！	13人
	12月14日（土	「音楽で健康づくり」 脳の活性化で認知症予防に取り組みましょう！	10人
管理栄養士国家試験準備講座	9月14日（土）	基礎栄養学	6人
	9月14日（土）	臨床栄養学	3人
	9月21日（土）	応用栄養学	7人
	9月21日（土）	生化学	5人
	9月28日（土）	解剖生理学	8人
	9月28日（土）	応用力問題	6人
高校生向け講座	7月30日（火）	初心者のためのピアノ教室	9人
	9月21日（土）	TOEIC® Listening & Reading Test 対策講座	33人
つなぐ育ち事例勉強会	5月18日(土)	知能検査と発達支援～WAIS-Ⅲの結果の読み取りを中心に～	41人

協定先一覧

2020 年 3 月 31 日現在

協定先	内　容
放送大学	鈴鹿国際大学と放送大学との間における単位互換に関する協定書
鈴鹿市	鈴鹿国際大学と鈴鹿市との学官連携に関する協定書
中華人民共和国河北工業大学	日本鈴鹿国際大学と中華人民共和国河北工業大学の編入学生に関する協議書
中華人民共和国河北工業大学	日本鈴鹿国際大学と中華人民共和国河北工業大学の学術交流に関する協定
鈴鹿市	大規模災害時における避難場所としての使用に関する協定書
三重県立久居高等学校	三重県立久居高等学校と学校法人享栄学園鈴鹿短期大学との高大連携に関する協定書
四日市大学　他５高等教育機関	三重県私立高等教育機関の包括的連携に関する協定書
社会福祉法人鈴鹿市社会福祉協議会	社会福祉法人鈴鹿市社会福祉協議会と学校法人享栄学園鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部との災害発生時における相互協力に関する協定書
鈴鹿高等学校 鈴鹿中学校	鈴鹿中学校 ・ 鈴鹿高等学校と鈴鹿大学 ・ 鈴鹿大学短期大学部との高大連携に関する協定書
大韓民国順天第一大学校	日本国鈴鹿大学と大韓民国順天第一大学校の学術交流に関する協定
大韓民国仁川大学	日本国鈴鹿大学と大韓民国仁川大学校との教育の交流に関する協議書
大韓民国仁川大学	日本国鈴鹿大学と大韓民国仁川大学校との学術交流に関する協定
NAJC	鈴鹿大学と NAJC の教育パートナーシップに関する協定
台湾首府大学	鈴鹿大学と台湾首府大学との学生交流及び進学支援に関する協議書
台湾首府大学	鈴鹿大学と台湾首府大学の学術交流に関する協定
三重大学　他 11 高等教育機関 三重県	「高等教育コンソーシアムみえ」に関する協定書
三重大学　他 12 高等教育機関	高等教育コンソーシアムみえ単位互換に関する協定書
三重県立四日市工業高等学校	三重県立四日市工業高等学校と学校法人享栄学園鈴鹿大学との高大連携に関する協定書
亀山市教育委員会	亀山教育委員会と鈴鹿大学との連携に関する協定書
亀山市教育委員会	亀山教育委員会と鈴鹿大学短期大学部との連携に関する協定書
蘇州人旺資源服務有限公司	中国人留学生の就職支援に関する協定書

中国文化大学社会科学院	鈴鹿大学と中国文化大学の学術交流に関する協定書
道の駅「紀宝町ウミガメ公園」 紀宝町	国内研修に関する覚書
尾鷲市	尾鷲市インターンシップの取扱いに関する協定書
SUZUKA 産学官交流会	ランニングバイクプロジェクトに関する基本協定書
啟英高等学校	啟英高等学校と学校法人享栄学園との高大連携に関する協定書
啟英高等学校	鈴鹿大学と啟英高等学校との学生交流及び進学支援に関する協議書
長榮大学	鈴鹿大学と長榮大学との学術交流に関する覚書
岐阜経済大学	大学間連携推進事業の実施に関する協定書
株式会社日本政策金融公庫津支店 株式会社日本政策金融公庫四日市支店	起業家教育及び産学連携の協力推進に関する協定書
佛教大学	佛教大学と鈴鹿大学との小学校教諭免許状課程履修に関する協定書
亀山みそ焼きうどん本舗 亀山市 株式会社鈴りん探偵舎	Ｂ－１グランプリで亀山をしってもらおう協定
松阪市 三重県立飯南高等学校 株式会社鈴りん探偵舎	飯南いいな～協定
三重県高等学校商業校長会	三重県商業学校商業校長会と鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部との商業教育連携・推進に係る協定書
株式会社タスカル	株式会社タスカルと学校法人享栄学園との産学連携基本協定書
三重県	鈴鹿大学及び鈴鹿大学短期大学部への三重県営住宅の提供に関する協定書

2019（令和　元）年度　社会連携報告書

報告書作成・編集
COC（地域連携）・国際交流センター

発行年月日
2020 年3月31日

発行
学校法人享栄学園
鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部